

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502814		
法人名	医療生協かわちの生活協同組合		
事業所名	グループホームよおぎ 西町		
所在地	八尾市八尾木6-100		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は東町、西町の2ユニットに分かれていますが、どちらのユニットにも自由に行き来できるようにオープンな環境を整えています。また屋上には家庭菜園があり野菜の収穫なども入居者様と一緒にこなっています。
季節の行事や遠足・外食なども年間行事として取り組んでいます。『一人ひとりの遣り甲斐や生きがいを支える介護』をモットーに入居者様の想いや願いに最大限お応えできるようスタッフ一同目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生駒山の麓にH16年にオープンした当施設は閑静な住宅街の一角に位置している。1階に法人の診療所があり、ホームは3階でエレベーターを上がると東側のユニットが東町・西側のユニットが西町とされ、利用者の居室には管理者手作りの、木製の表札に町名と番地が付けられている。東南の角に位置したリビングには太陽の自然光が充分ふりそそぎ冬でも暖かく家庭的な雰囲気満ちている。屋上では利用者と職員と一緒に家庭菜園を行い、収穫した季節の野菜で利用者の家族も参加したバーベキュー大会を開催し、皆で楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.誰もが自分らしい生き方を 2.命と人権を尊重する介護 3.安全、安心の質の高い介護 4.介護を受ける権利を守り発展させる運動	法人の理念1、誰もが自分らしい生き方を 2、命と人権を尊重する介護 3、安全、安心の質の高い介護 4、介護を受ける権利を守り発展させる運動を毎月の定例会で話し合っている。	GH独自の理念を考案し、共用スペースに掲げ職員全体で朝礼時などに、唱和することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の組合員に支えられており1年を通じて多数の行事や活動に積極的に深めている	地域のコミセン祭り、敬老会、ニコニコ祭りなどに積極的に参加して気軽に話し合い、交流がおこなわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として又職員個人としては組合員とともに取り組んでいるが事業所全体としてはあまり取り組めていない。地域の人から個別に相談のある場合はその都度応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回取組の報告を行い、参加者から率直な意見や要望を伺いサービスの向上につなげていくようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、参加者は地域の老人会会長、民生委員、法人の理事計画作成担当でホーム側の活動報告、参加者からの意見・要望などをサービス向上につなげている。	入居者の家族・入居者に参加を呼びかけ参加者増加を図ると共に運営推進会議の議事録を玄関に掲げるなどして誰もがみれる状態が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、連絡報告し指導を受けている。	管理者が市の主宰のGH施設部会、行政などに積極的に参加し情報交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはスタッフは研修等で勉強しており理解している。エレベーターや出入り口の施錠は行っている。	玄関は施錠されていないが共用部からのエレベーター・出入り口の施錠は行っている。法人の研修に出席し理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同高齢者虐待について理解できていると思うが定期的な学習会等は行なっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度については対象者がいないので学ぶ機会がないが今後必要となることもあると思うので学習したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が納得をされるまで説明している。また質問しやすい雰囲気作りを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見や来訪時に対話して聞いたことは職場会議で報告検討している。	家族会が3ヶ月に1回開催し、家族からの意見や来訪時に聞いた意見、提案を議題にして出来るだけの反映をこころがけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議のな中で直接意見を聞いたり、事前に意見を聞き会議の議題にして出来るだけ反映できるようにしている。	無記名の提案用紙を作成し職員からの自由な発言を聞き入れ風通しの良い職場の雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時には出来るだけ個人の希望を聞き入れ働きやすい職場作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加できるよう、それぞれに声をかけ職場内に掲示している。定期的に面接時に力量チェックシートで自己を振り返り指導できる機会を持ちようとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設間では交流する機会を持ってはいるが他の同業者とは一部の事業者を除いてはあまり交流できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは施設に慣れてもらえるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームに足を運びやすいように面会に来られた時等、家族様の話を聴いたりして信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者1人1人の生活歴や認知度など見極めのカンファレンス等を行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器洗いなど、一緒作業しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や入居者の意向を考慮し関係作りを支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が訪問した時は明るく招き入れ、居室にてゆっくり歓談していただいている。	面会時間の制約はなく、外部から面会に来やすい環境づくりで、来訪を歓迎している。手紙や電話での交流にも職員は暖かく見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声かけやフロアの席の位置を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様に自宅で使用していた身の回りの品物を頂いたり、話を聞いて日ごろの会話に取り入れ利用者に思い出話等していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望、希望に耳を傾け把握に努めている。	職員が利用者個々の要望を聞き、知りえた情報を共有しながら、自分で出来ることを尊重するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言動や家族に伺い暮らし方、個々の過ごし方を理解しサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の意思を尊重し声かけなどで体調などにも気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の症状について話し合い安楽に暮らせるよう計画作成している。	日々の暮らしの中での様子や家族・職員から知り得た情報を元に介護計画を作成している。	3ヶ月に1度の介護計画の見直し、記録作成、介護計画書を事業所独自の形に改善されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調、活動を記録し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設クリニックと連携しサポートを行っている。歯科受診、散髪など適宜、来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にできるだけ参加しふれあい作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、クリニックにて定期受診している。	1階に併設のクリニックがあり往診通院の援助を行っている。入所前からの医師への通院には家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師や看護師との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には利用者の身体状況や服薬内容の照会をしたり、入院中に面会に行き担当医師とカンファレンスを行なうなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族、スタッフでカンファレンスを行ない方針を共有しチームケアに努めている。	入所時の看取り重度化指針で家族と確認し、併設のクリニックのドクターの指導を受けながら重度化指針を作成中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はホーム長、医療機関に連絡し対応を仰ぐ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導のもと避難訓練を行なっている。組合員の協力体制も整っている。	50名以上の災害協力隊メンバーを交え消防署の指導のもと、年2回の避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格やプライバシーは尊重し声かけに気をつけている。居室に入られている場合も気にかけている。	接遇研修でレベルアップを図り、職員間でも注意しながら声かけには、個々の人格やプライバシーを尊重している。また職員の個人面談時にも指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や思いを表出しやすい環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のリズム(スケジュール)はあるが強制ではなく個人の体調、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の好みを伺い準備を一緒にしたり、清潔が保てるよう洗濯を促すよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の話題や食事の準備(盛り付け、配膳)洗い物や片付けを一緒にしている。	建物内の炊事場で調理されトレイにて上がってくる。ご飯は各フロアで炊き利用者が盛り付け、配膳片付けなど出来ることは分担し手伝っている。月2回手作りのおやつ作りもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は個々の希望する量に対応している。水分量が少ない場合は声かけし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促したり手順を声かけにより支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を見ながら声かけ誘導している。屋間はなるべく布のパンツにパットを使用するようにしている。	排泄記録をもとに利用者の自尊心を大切に時間を見て誘導している。パンツとパットを個々に選んで個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やウォーキングなどで腸の働きが良くなるよう運動している。排泄チェック表を見ながら服薬の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	脱衣場では利用者の好みの音楽をかけたり入浴しながら音楽を聴いてリラックスされる。入浴拒否される方のようすを見計らって声かけをする。	入浴は週3回の午後を中心に班分けをし個浴を楽しんでいる。利用者の健康状態や希望により清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間になるまでフロアで過ごしたり居室で過ごしたり個人の意思を尊重している。時間にはパジャマへの更衣を促し自力で行うよう見守りする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はスタッフが必ず日付、氏名を声にして確認し本人にも確認して服薬して貰う。飲み残しがないか確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団でのレクリエーション(歌、書道、太極拳など)や個々の趣味(俳句、気功など)の提供。それぞれの要望に応じて飲食物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別対応での買い物や散歩の支援をしたり地域での催し事に家族やボランティアの方と一緒に参加している。	近くの天王寺公園、桜公園に散歩に出かけ、施設前のスーパーへの買い物に出かける。年2回自家用バスでの遠足や地域のお祭りへの参加をしている。又家族と共に外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は自分で所持されている。管理出来ない方は事務所で管理し必要に応じて渡し買い物など行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は押し絵や切り花をはがきに貼って家族に渡していたが最近出来ていない。電話は希望があれば事務所にてかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、フロアなど毎日の掃除で清潔に保っている。玄関、フロアなど利用者と一緒に飾り付けし季節感を出している。	屋上では野菜や季節の花を栽培し玄関フロアなどに利用者と共に飾り付けている。フロアは掃除が行き届いて清潔に保たれ居心地よく過ごせるように工夫されている。朝の体操は屋上で行われている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに個室があり、一人の時間とフロアで過ごす、みんなとの時間を利用者本人が自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物やなじみの物を居室に置き家で過ごしているような環境作りをしている。	居室には押入れがあり、家具、テレビ、仏壇など思い思いに持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室など大きな字でわかりやすく表示している。廊下には手すりを取り付けている。		